



投資日報出版

MMA Cycles Report

By Raymond A Merriman

コピー 対外配布 厳禁

No.211 Mar 9 2005

1. 回顧と展望

現在2月25日～3月26日の長期間に亘る天体位相の中心点に入りつつある。中心点は3月11日～14日であり、これが重要変化日と解釈される。通常、この変化日の前後3営業日以内に実際のサイクルの天井、あるいはボトムが到来し、その後相場は反転する。しかし、これだけ長い変化時間帯の場合は、前後に5営業日のオーブをとる必要がある。現在この時間帯に接近しているので、ダウ平均は3年ぶりの高値をつけつつあり、且つ、原油は4ヶ月前の史上最高値55ドル以上を再テストしている。また、多くの穀物市場ではPCの新高値をつけている。

今月後半の2週間で3つの天体が静止状態から運行の方向を変える：水星3月19日、土星3月21日、冥王星3月26日。地球中心の観点から、方向を変える惑星は8つであるから、これは、僅かの期間内で3つの天体が方向を変えることになる。天体の方向が逆転するのは（順行から逆行へ、あるいは逆行から順行へ）、投資家のセンチメントに変化をもたらす傾向が強い。この場合、それは通信、説明責任、および負債である。以上、全てを考慮すると、発表された情報が負債の状態に重大な懸念を与えることを示唆する。私は、それは株式相場を押し下げる影響があると思う。

* 次回のレポートは4月1日発行予定

メリマン氏の執筆時は3月8日（海外マーケット）、9日（日経、ドル円、JGB）です。

2. 重要変化日：重要変化日は次の日付の前後3営業日である

- | | |
|----------|------------------------------|
| 3月11～14日 | （2月25日～3月26日：全ての市場、但しオーブ5日間） |
| 3月21日 | （上記の相場反転と関連する：株式） |
| 4月8日 | （4月2～14日） |

3. 米国株価 重要変化時間帯に入る

2週間前のレポートで次のように述べた“2月25日～3月26日は極めて強力な天体位相のクラスター(天体が次々と主要アスペクトを形成する)の時期である。私は、米国株価は不安定になるが、強含みであろう。何故なら4月15日の税務申告の締め切り前に、退職金がマーケットに流入するからだ。しかし、この時間帯にPCの天井が出現し、それは50週サイクル、及び4年サイクルの天井になる可能性もある。その場合は2000年にスタートした弱気相場が再現し、2010年末にかけて弱気相場が続く可能性がある……今回は50週サイクルの中の第2PCであるから、天井をつける時期は非常に重要である。もし長期サイクルが私の予想通り、下値を指向しているとすれば、4年サイクルはこの50週サイクルの中間点より前に天井をつける可能性が極めて高い。即ち、この第350週サイクルは現行PCの中で天井をつける事を意味し、理想的には9週間目の火曜日以前である。すなわちそれは3月29日以前である”。

実際相場はこの時間帯に入ると、3年ぶりの新高値に向けて上昇しており、現在ダウ平均は11,000をテストしている。相場が3月29日以降もサイクルの高値を更新し続けるとすれば、72年サイクルが優越サイクルではないことを考慮せざるを得ない。むしろ、その場合は、より支配的な90年サイクルが存在し、このサイクルは2000年には天井をつけていないかもしれない。それは2008年～2010年に天井をつけた後、2020年の土星/冥王星のコンジャンクション形成の前後2年以内に90年サイクルのボトムをつけるだろう。

現時点では、私は現行PCと50週サイクルとの関連に注目している。3月7日は新PC(13~21週)の6週目である。現在、相場はこの新PCの前半の天井に向けて反騰中であり、その目標値は $11,093.60 \pm 85.53$ である。私はこのサイクルは3月29日までに天井をつけると思う。理想的には3月21日までに天井をつけるだろう。一旦天井が形成されれば、ハーフPC(7~11週)のボトムに向けて急落するだろう。この場合のボトムは3月14日~4月15日の間に出現し、相場はこのPCがスタートした1月24日の安値 10368 からの全上昇幅に対し45~85%下げるだろう(このハーフPCの天井レベルの如何にかかわらず)。

その後の相場動向が非常に重要である。もし、このPCの新高値がPCの後半に出現するとすれば(3月29日以降)、PCは強気のライトトランスレーションパターンになる。しかしそれは長期72年サイクルが否定されるわけではなく、代わりに90年サイクルが有効になる可能性があり、新高値を指向することになる。その場合は2002年10月が18年サイクルのボトムであった可能性が強まり、新18年のサイクルは2008~2010年まで続騰する可能性を示すが、現時点ではその可能性について考えるのは、時期尚早である。

さて、現行PCの天井目標値は $11,528.90 \pm 214.87$ 。それは2000年1月につけた史上最高値 $11,750$ に対するダブルトップの可能性があり、2008~2010年に向けて下落トレンドを形成する懸念がある。さらに、3月29日以降(即ち現行PCの後半)にサイクルの新高値をつけなければ、2000~2002年の弱気相場が再現するとの見方は変わらない。

2008~2010年の間に長期サイクルがボトムを付けるとの見方を支持するのは、ダウ平均とS&P先物のダイバージェンスである。ダウ平均が史上最高値から約7%下落したのに対し、S&P先物の期近は約30%下落している。

S&P先物期近はダウ平均と同様に今週は新PCの6週目である。6月限S&PのハーフPCの天井目標値は 1236.40 ± 7.85 。相場は現在このレンジに入っている。3月29日以降にサイクルの新高値をつければ、相場は弱気から強気に転換する。相場が 1170 を下回れば、弱気に転じる。

私の天体位相の分析から、現在は年間で最も重要な天体位相の時間帯に入っていることを考慮し、且つ、今月に天井からの下げ相場が始まると見て、トレーダーはハーフPCの天井のサインを注視して、特に3月4~21日の間にショートするチャンスを狙うのが良いだろう。

米国株価の短期重要変化日 次の日付の前後1営業日以内に米国株価は2.5%以上の反転が予想される。

3月11~14日

3月28~29日

4. 米ドル/円 依然不透明

3月7日の週はドル円相場のPC(26~40週)の7週目である。前回のレポート以来、ドルは安値 103.79 と、高値 105.80 であったが、現行サイクル内ではスタート時の 101.65 から高値 106.86 の間でトレードされている。依然として相場の方向は不明確であり、結局、保合い状態になっている。前回次の通り述べた。“ドル円相場は 106.19 を上回り、2月9日は 106.86 をタッチした後、下落した。現在、日足ストキャスティックスは急落を指向しているが、それはまだ新サイクルの5週目に過ぎない。通常のドルの修正安は 104.25 ± 0.61 である。もしこのエリアが維持されれば、相場が高値に向かう可能性があり、現在の第1MC(9~14週)内においてもまだ上昇する可能性がある。現在、重要変化時間帯に入っている(2月25~28日 ± 3 営業日)。これはトレーディングサイクルボトムと合致する可能性があるので、トレーダーはドル買い、円売りが良いと思う”。さて、ドルの安値は 103.79 であったが、ドルはこの安値からあまり上昇していない。ストキャスティックスはまだドル強気のサインを示していない。ドルが下落して 103.79 を下回れば、第1MCの天井は既につけたと推定せざるを得ず、相場はMCボトムに向けて下落中であり、ボトムは3月21~4月29日の間になるだろう。重要なポイントはドルが7週間前にスタートしたPCボトム 101.65 以上を維持するか否かである。維持できなければ、現行PCが終了するまで、ドルはじり安になり、その第1目標値は 97.11 ± 1.07 である。しかし、 101.65 以上が維持される限りは(特に 103.79 が維持されれば)、PCの天井目標値は依然として 107.14 ± 1.26 、あるいは 108.35 ± 1.54 になる。私の見方はやや、ドル強気である。しかし、ドルが 101.65 を下回れば、この見方は変更されるだろう。3月18~21日はもう一つの天体位相による重要変化時間帯である。

5. 日経平均株価 サイクルの新高値に向けて反騰

日経平均株価は2月23日に第1MCボトム11,452まで下落した後、相場は急騰して3月7日に11,975をつけた。これは8ヶ月ぶりの高値で、2004年の12,190~12,195の高値に挑戦中である。これは2週間前書いた私のレポートの分析と合致している。

即ち、“月曜日(2月21日)の高値11,690が第1MCの天井であったとすれば、MCボトムに向けて3~8日の下げが進行中である。この場合の目標値は11451±57である。25日移動平均は11450であり、私は第1MCのボトムでは相場はこの移動平均にタッチすると思う…。来月の天体位相は極めて活発であり、3月26日までは非常に不安定な相場を示唆している。…私のベストの推測では相場はここで多少下げて(2月21日~22日に書いたものである)、来週までにMCボトムをつけるだろう(相場はその通りであった)。さて私は相場はもう1度ハーフPCの天井に向けて反騰するが、その後再びハーフPC(7~11週)ボトムに向けて急落するだろう…。この見方は非常に強気であり、新PCの天井目標値は12,217±194であり、恐らく今後2~4週間以内に達成されるだろう”。

3月7日はPC(13~19週)の6週目である。私は相場は現在このPCの前半の天井に向けて反騰中であり、その後、ハーフPCのボトムに向けて急落すると思う。ハーフPCのMC P天井目標値は11,930±85であり、これは3月7日に実現した。また、相場は前回のレポートで述べた天体位相と合致している。即ち“3月4日には金星と天王星がコンジャンクションになる。これは80%以上の確率で、4営業日以内にMC以上のサイクルのボトム、あるいは天井と合致する。現在、私はそれはMCボトムと合致して、非常に短期の買いのチャンスになると思う。しかしその後は短期の売りのチャンスになると思う。これらの相場の変動は3~8営業日に過ぎず、3月のほとんどの期間はこの動きが続くと思う”。

結果はボトムではなかったが、それはハーフPC(あるいはPC)の天井と合致した可能性がある。各相場の変化日では、やはり相場が変化した。もし3月7日がハーフPCの天井ではなかったとすれば、私は3月21日までに出現すると思う。しかし、その後はハーフPCボトムに向けて、3~13日間急落すると思う。このハーフPCボトムは4月15日までに出現するはずであり、この下げで25日移動平均(現在11619で上昇中)を下回ると思う。その後の反騰が今後の48週サイクル、及び18.5ヶ月サイクルの位相を示してくれるだろう。

相場がこのサイクルの後半で高値を切り上げれば、これらの長期サイクルは依然として上昇を指向していることになる。しかし、現在形成中の高値を更新しなければ、これらの長期サイクルはここでトップアウトする可能性がある。

長期的には48週サイクル、及び18.5ヶ月サイクルが10月25日の安値からスタートした。現在はこれらの長期サイクルの第2PCに位置している。48週サイクルは通常3つのPCで構成されている。従って、現在第2PCで天井形成中の可能性がある。また、15日スローストキャスティックス、及び8週スローストキャスティックスは買われすぎの状態になっている。それは必ずしも、現在、PCの天井形成中であることを意味するものではないが、その可能性はある。私はここで、反落を好み、その後、ストキャスティックスが新高値をつけないで、相場がハーフPCの新高値をつける事を望む(弱気オシレーターダイバージェンス)。

以上を踏まえて、トレーダーは今後2週間以内にハーフPCの天井形成を予期すべきであり、その後、急落して私は25日移動平均を下回ると思う。積極的なトレーダーはこの天井で売りを狙っても良いだろう。しかし、より慎重なトレーダーはハーフPCのボトムに向けての下げを待ち、4月15日までにつけるハーフPCボトムで買い場を狙うべきであろう。その時の相場は25日移動平均を下回っていると思う。もし、3月7日がハーフPCの天井であったとすれば、3月21日前後にボトムが出現するだろう。しかし3月7日が天井でなければ、4月8日の重要変化時間帯がハーフPCボトムになるだろう。3月8日前後は3月11~14日と同様に潜在的な変化日時間帯である。前回のレポートで述べた通り、この期間は相場が非常に不安定になりやすく、時として、今年の新年に見られたような大きな相場変動がみられるだろう。

6. Tボンド及び外国通貨

3月7日はTボンドのPC(18-28週)の14週目である。3月4日に、6月限は111/01まで下落した。これは2月9日の高値116/21からの急落である。私はこの高値は25カ月サイクルの天井であったと思う。

前回レポートで次の通り述べた“下値のメジャリングギャップ(ギャップからの計測)目標値は111/20±1/15。このギャップが埋められれば(114/19以上)、この目標値は否定される。しかし、たとえそのレベルに到達したとしても、新弱気相場における第1段の下げに過ぎず、弱気相場は2006年半ばまで続くと思う”。

3月4日の安値は恐らくハーフPCボトムであったと思う。私の予想が正しければ、その反騰は、3~13日間しか続かないだろう。価格目標値は113/08~114/16である。相場は既にそのレベルに到達した。しかし、まだ時間的には終了していない。3月14~22日の期間はT-ボンドにとって重要である。従って、相場がその時にハーフPCの天井に向けて上昇し、目標値に向かっているとすれば、トレーダーはショートを狙うのが良いだろう。相場が111/01以下になれば、修正高は終了したことを意味し、108~110までの下げが進行中と見られる。6月限が115/06を上回らなければ、弱気ストラテジーを継続すべきだろう。

3月7日はユーロ及びスイスフランのPC(22-33週)の4週目である。前回レポートで次の通り述べた“私は今回の反騰は短命であると思う。私は通貨の相場は依然として、4年サイクルのボトムに向けて下落中と思う。そのボトムは2005年1~12月の間につけるはずである。この見方が正しいとすれば、この反騰は2~8週間以内に1.3206±0.0105、及び0.8530±0.0085で終わる。引け値が最近のギャップアップデイズのユーロ1.2902及び、スイスフラン0.8302を下回れば、相場が今後さらに下落するという私の見方を支持する。それまでは両通貨とも今後1~2週間は上昇する余地がある。しかし、ユーロが1.3500、且つスイスフランが0.8650を上回らない限り、私は4年サイクルはまだ下落の過程にあると思う”。

この見通しは依然として有効である。2月28日には6月限ユーロは1.3303でサイクルの新高値をつけた。しかし6月限スイスフランはサイクルの前週につけた新高値0.8692に僅かに及ばなかった。これはまだ確定ではないが、異市場間弱気ダイバージェンスになる可能性がある。しかし私はスイスフランのPCの天井には少し早すぎると思う(僅か2週目であった)。従って私は両通貨とも3月21日まではもう少し上昇の余地があると思う。

しかしそれでも、反騰を見てトレーダー、及び投資家は弱気ストラテジーをとるべきと思う。何故なら、私は4年サイクルのボトムがまだ出現していないと思うからだ。それはこれらの通貨がこのPCの中で数年ぶりの新高値をつけないことを意味するものではない(ユーロよりはスイスフランの場合のほうが可能性がある)。しかし、サイクルの終盤であるから、既に天井をつけ、下げが始まっている可能性がある。ボトムをつける前に、この種の反騰の可能性はあるが、私はその場合は修正高であると思う。6月限ユーロが1.3550を引け値で上回れば、私の位相分析は変更せざるを得ないかもしれない。それまでは私はすべての反騰時には売りを狙いたい。

7. 日本国債先物(JGB)

3月7日の週はPC(15~23週)の17週目か、あるいは22週目である。前回次の通り述べた“相場は2月2~3日(重要変化時間帯)に139.96の天井をつけた後、PCボトムに向けて下落中である... PCボトム目標値は138.12±43。2月15日にJGBは138.26をつけたが、これは目標エリアの範囲内である。その後、3日間の反騰を見せた後、JGBは再び下落した。もし相場が138.26を上抜き、25日移動平均(現在139.22)を上回れば、恐らく新PCに入っていることが確認されるだろう”。

さて相場は下落して138.26を下回ったが、その後25日移動平均を上回らなかった。これはまだPCのボトム形成中を意味する。3月3日に相場は期近が137.15まで下落した。

15日スローストキャスティックスは再び25%以下で強気ダブルループを形成中である。現在相場はこの非常に重要な変化時間帯に入っている(2月25~3月26日:中心は3月11~14日)。もし先週ボトムでなかったとすれば、ボトムは3月26日までにつけるだろう(3月21日までに付ける可能性もある)。しかし先週ボトムをつけた可能性がある。なぜならそれは2月25日~3月7日の間であり、特にこの重要変化日は金利市場と関連が深いからだ。

前回次の通り述べた“2月25日から3月7日までの期間は天体の位相をベースにすれば、PCボトムの時間帯である。しかしもう一つ重要なシグナルが3月14~18日に出現する。従って、トレーダーは2月25日から3月21日の間にPCボトムが出現することに注意すべきである”。ストキャスティックスのKとDが25%を上回り、KがDとの距離を広げれば、買いシグナルになる。さらに、相場が25日移動平均(現在138.59で下落中)を上回れば、既にPCボトムをつけたことが確認される。以上を踏まえてトレーダーは間もなくPCがボトムを付けるシグナルを注視すべきである(ボトムの時期は3月21日以前)。相場の目標値は136.61±0.79であり、現在相場はこのレンジ内に入っている。従って、買い場を狙う時期である。

8. 貴金属 長期サイクルの位相をテスト中

フォーキャスト2005で次の通り述べた“ 8.5年サイクルの中には通常2つの4.25年サイクルが入る。2001年4月の安値から計算すると、次の4.25年サイクルボトムは05年7月±8ヶ月の間に形成されるはずである。.....金の18.5ヶ月サイクル(通常オーブは15~22ヶ月)も同様である。このサイクルは04年5月に372.00でボトムをつけた。それは金星が逆行に転じる1週間前である。さてこのサイクルの次のボトムは2005年8月~2006年3月の間である。これは予想される4.25年サイクルのボトムの時間帯と重複する。これは4.25年サイクルの中の、最後の18.5ヶ月サイクルであるから、このサイクルがスタートした2001年4月以降で最も厳しい下げが予想される。それは前18.5ヶ月サイクルのボトム(372前後)を再テストする可能性が高い。しかしその前にこの最後の18.5ヶ月サイクルの天井が出現する”。

問題はその天井が昨年12月初めに460前後で出現したのか否かである。もしそれが出現したとすれば、4.25年サイクル、及び18.5ヶ月サイクルのボトムに向けて、相場が下落中であることを示し、現在の相場反騰は修正高の第1段階に過ぎない。

2月21日の週に6月限金は432.50から435.50にギャップアップした。相場が432.50以上を維持する限りは、上値の目標値は454.00±4.80になる。金は2月28日に441.50まで上昇した。この日は変化日であったが、3月3日には432.60まで下落した。しかしギャップを辛うじて維持した。現在MCの天井目標値は438.20±5.50である。しかし、ギャップアップレベルが維持される限り、6月限金はメジャリングギャップ目標値まで上昇すると思う。しかし一旦ギャップが埋められれば、強気の見方から、ニュートラルになるだろう。今週は新PCの4週目であり、相場が450エリアに到達する前にこのギャップが埋められれば、相場はMCボトムに向けて下落中であることを意味する。ボトムの時期は3月14~4月1日である。もし、6月限金が414を下回れば、18.5ヶ月サイクル、及び4.25年サイクルがボトムに向かっていることを意味する。現在は非常に重要な天体位相の時間帯であり(3月26日まで)、相場は上昇中である。私の見方では、この期間中にPCの天井が出現し、相場は現行PCが終了するまで下降トレンドになると思う。それは恐らく2005年6~8月まで下落が続くだろう。以上を踏まえて、トレーダーはPCの天井のサインを注視し、ショートを狙うのが良いだろう。

長期的には投資家は本年未までに到来する4.25年サイクルのボトムで金の買い場を狙うべきと思う。私は金は2年以内に500ドルを大幅に上回ると思う。そのピークは2007~2010年の間であろう。

3月限銀は今週はPC(13~21週)の9週目である。2月22日には銀の7月限は765でトップアウトした。金がサイクルの新高値をつけた2月28日には、銀はサイクルの新高値をつけなかった。従って、これは異市場間の弱気ダイバージェンスである。

前回のレポートで次の通り述べた“...18日CCIは+300以上に暴騰した。私のシルバーストックには次のルールがある。即ち、CCIが+200を上回れば通常、その後7営業日以内に天井を付ける。あるいは、緩やかに下落すれば、その後新高値に向けて、急反騰してその直後にCCIが低下する。いずれにしても、まもなく重要な天井が出現する。私は今後2週間以内にPCが天井をつけた後、ハーフPCボトムに向けて急落すると思う。しかしその後は1~3週間の修正高があり、その後PCボトムに向けて下落するが、その前のハーフPCボトムを下回るだろう”。

765の高値は少なくともハーフPCの天井であり、PCの天井であった可能性も極めて高い。相場は現在ハーフPCボトムに向けて下落中であり、目標値は665~712である。現在までの安値は先週の723であった。もし相場が3月11~14日の重要変化時間帯に向けて上昇し、さらに金に対しての弱気ダイバージェンスになればそこは売り場になると思う。

9. 穀物

3月7日は、7月限コーンのPC(15-21週)の4週目である。前回レポートで次の通り述べた“2月8日に相場は209まで下落したが、それは私の下値目標値207±6の範囲内であり、且つ重要変化時間帯でもあった。この場合は233±7までの反騰が予想される。相場は今年はこのレベルを大きく上回る可能性がある。何故なら、それは新5~7年サイクルのスタートの年であるからだ”。

ビンゴ! コーンは2月28日の重要変化日に231まで上昇した。現在相場はMCボトムに向けて下落中である。この場合の目標値は220±3である。相場は既に3月7日にこのレベルの下限に到達した。この日は重要変化日であるから、相場がこのレベルを維持できるかどうか注目したい。もし維持されれば、再度反騰に転じて、新強気相場のスタートになるかもしれない。

7月限大豆は2月4日に506でPCボトムをつけた。これはズバリ重要変化日の2月4日であった。相場は3月4日に639まで上昇した。それはMCの天井であった可能性がある。相場は現在MCボトムに向けて下落している。現在は5週目である。610~614には週間ギャップがある。引け値がこれを下回れば、MCのボトムが確認される。しかし、そのギャップが維持される限りは、7月限の大豆は、今年目標値の700をテストするだろう。たとえ、ギャップが埋められても、私は700までは上昇すると思う。引け値が540を下回った時のみ、私の強気見通しは変更されるだろう。トレーダーはこのMCボトムで買い場を狙うべきであり、MCボトムは今後1~2週間以内に出現し、それは今週木曜日の新月になるかもしれない。

7月限小麦は新PCに入り、先週は352まで上昇した。これは2月4日のPCボトム303からスタートしたものである。ここでも相場はMCボトムに向けて、反落する可能性がある。何故なら今週は5週目になるからだ。目標値は327±6の可能性がある。トレーダーはこのMCボトムで買い場を狙うべきである。何故なら相場はこの新PCの中で高値を付ける可能性があるからだ。

10. 原油

3月7日はPC(15~22週)の13週目である。前回次の通り述べた“相場は現在1月25日の高値49.75をテスト中である。これは現在までのところ、このサイクルの高値である。相場はこれを上抜くだけのテクニカルな強さがあり、恐らく、MCP目標値の54.12±1.56まで到達する可能性がある。...木星が3月14日に海王星とトラインになる。これは3回シリーズの同じ位相形成の内の2回目である。第1回目の位相形成は11月末に出現、その時はPCボトムと合致した。しかし私は強気である。火星が射手座、及び、山羊座に3月20日まで滞在するので、原油は大幅な変動が予想される。現時点では私は買いから入ることを好む...”。

この見通しは予想通りであった。何故なら原油は先週末に55.60まで急騰したからだ。これは恐らく10月27日の史上最高値55.65に対するダブルトップであったと思う。今週は第2MCの4週目であり、まだ天井をつけたというシグナルは出ていない。49.25~49.75の間にギャップアップがあった。これは相場の下値をサポートする。相場が49.25以上である限りは、57.80±2.00まで続騰する可能性がある。

しかし、木星/海王星のトラインが3月14日に形成され、特にこの位相は原油と関連が深い。私はこの位相の10日以内に天井をつけると予想する。もう一つの原油の重要変化日は4月1~4日の前後3営業日である。長期的には投資家は天王星が魚座(2003~2010年)に滞在することに留意すべきである。魚座は原油を支配し、天王星は“バブル”を支配する。天王星が水瓶座に滞在中(1995~2003年)にテクノロジー(水瓶座)のバブル(ナスダック指数)と合致した。その時相場は上昇して史上最高値をつけ、その後下落して全ての上昇幅を失った。従って私はこの10年間は原油も同様のパターンであると思う。

お詫び訂正) 前回のレポートで原油に関して3月14日に木星/海王星の「スクエア」とレポートしましたが、これは「トライン」の誤りです。訂正お詫び申し上げます。

次のレポートは4月1日